

「第2回近畿バルサミット」が開催

11月12日(土)午後2時から「第2回近畿バルサミット」が伊丹市立産業・情報センター(4階会議室)にて開催されました。

この日は、滋賀県守山市、京都府木屋町、大阪府福島区、兵庫県川西市、和歌山県田辺市など近畿2府4県や愛知県の岡崎市から行政、商工会議所、商業者、まちづくり会社、NPO法人の担当者や関係者が参加され、また近畿経済産業局並びに中小企業基盤整備機構近畿支部からも参加され開催されました。

バルは、もともとは北海道函館市の「バル街」が発祥で、札幌市や千葉県柏市で開催されるようになりました。近畿では伊丹市において函館市を参考に平成21年10月に「伊丹まちなかバル」が開催されたのが始まりで、以降、伊丹市をモデルに守山市や兵庫県西宮市などで開催されるようになり、今秋には、大阪府では野田バル、福島バル、八尾バル、うえほんバル、大阪水辺バルなどが、兵庫県では、甲東園バル、甲子園バル、きんたくんバル、板宿おもてなしバル、明石まちなかバルなどが、和歌山県では南紀田辺☆うめえバル、わかやま城下町バルなどが開催され、近畿地区では多くの地域でバルに取り組まれています。

近畿バルサミットは、バルを開催した地域、これから開催しようとする地域の相互の情報交換を目的とし

て、本年5月に伊丹市で『近畿バルサミット』が開催され、『近畿バルネットワーク』も発足されました。



サミット冒頭に、伊丹市都市活カ部・教育委員会生涯学習部綾野昌幸副参事より、「今回のバルサミットでは初めて開催した地域のバルの取り組み状況について話をお聞きし、情報交換の場にしてほしい。」と挨拶がありました。

伊丹では、いろいろなイベントを実施してもその集客効果がイベント開催時だけで、お店の売上増にはつながらないという課題を抱えていました。

そこで、実際に店に足を運んでもらって、店の雰囲気、料理や店主の人柄を知っていただくというバルイベントに取り組むことにしたもので、バルイベントの開



催にあたっては、企画段階から市民や飲食店の方々の参加を得て、多くのアイデアが盛り込まれ、今ではみんなで作る形でのイベントとして定着するに至っているとのこと。

サミットの意見交換会では、「本家」函館バル街視察DVD鑑賞から始まりました。

さすがに本家の函館は、参加 65 店舗でチケットの売り上げ 4 千冊、お店の平均売り上げチケット枚数は 300 枚、最高 1,100 枚で、お客の回転を速くするため、お店によっては椅子は設けずスタンディングスタイルをとっています。

ちなみに 10 月に開催しました第 3 回あるくん奈良まちなかバルでは参加 74 店舗でチケットの売り上げは 1,185 冊、お店の平均売り上げチケット枚数は約 80 枚、開催当日の最高売り上げは 143 枚でした。



次に、バルワングランプリと題して、5月の第1回バルサミット以降に初めてバルが開催された7地域からバル自慢が行われました。

三田バルは、38 店舗の参加を得て、チケットは各店舗から 10 冊売っていただき、550 冊の売り上げがありました。

水辺バルは、90 店舗の参加を得て、チケットは 2,100 冊の売り上げがあり、チケット 2 枚でクルーズが楽しめるとしています。

野田・福島バルは 45 店舗の参加を得て、チケットは 1,500 冊の売り上げがありましたが、バルを知らなかった人が多かったとのこと。

八尾バルは 16 店舗の参加を得て、チケットは 150 冊の売り上げがあり、地産の野菜を使った料理が特色です。

和歌山バルは 140 店舗の参加を得て、チケットは 2,200 冊の売り上げがありました。バルの実施範囲が

広いのでバスで移動するスタイルをとっています。

ベリバルは 61 店舗の参加を得て、チケットは 388 冊の売り上げがありました。ユニバーサルシティポートや天保山など 10 のエリアでイベントが開催され、さまざまな船でクルージングも楽しめます。

うえほんバルは 53 店舗の参加を得て、チケットは 500 冊の売り上げがあり、上本町を飲み歩くイベントとして開催されました。

バルワングランプリでは、それぞれの地域の持ち味を出しておられ、興味深く、あるくん奈良まちなかバルにも大変参考になりました。

その後、現地で伊丹バルを楽しみましたが、参加 100 店舗、チケット売り上げ 3,000 冊には驚かせられました。まちづくり情報サイト - 街元気 - では、「伊丹バルは、伊丹オトラクな一日と同時開催されている。伊丹市文化振興財団では、バルイベントが開催される以前から、“普段使いの音楽と街のいい関係”、“音楽があるのが特別じゃない風景を”をコンセプトに、伊丹オトラクと称してさまざまな形でプロジェクトを展開してきた。伊丹オトラクな一日は、バルイベントを開催するにあたり、流しのスタイルに特化してオトラクを実施することにしたものである。バルで賑わう店先、店内など約 30 会場で、市内外から参集いただいた 60 人以上のミュージシャンがジャズ、フォークソングなどさまざまな音楽を奏でている。」とのこと、行列のできている入店待ちのお客さんには心地よい調べになっていました。



今回のバルサミットでは、各地域のバルの取り組み状況から活発な情報交換が行われ、また、開催地の伊丹バルでは多くの方が参画し、みんなで作る形のイベントとして定着するに至っていることに感動を覚えました。